（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援あるく			
○保護者評価実施期間	令和6年3月1日		～	令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○従業者評価実施期間	令和6年3月1日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児、重症心身障がい児、その他の子どもを等しく支援出来る事。	安全に利用できる状況、環境を整えている。	活動の幅を広げていく。具体的には、活動の仕方の工夫などを充実させて皆が楽しめるようにしていくこと。
2	小規模多機能型であること。	場面場面で合同の活動であったり個人に切り替えたりする。互いにいい意味での干渉で思いやる気持ちが育つ。	そうれぞれの障がい特性などをよく知る努力を職員が怠らないこと。
3	ご家族が協力的であること。	問題を先延ばしせずすぐに解決していこうとする姿勢。	ご家族の意見を今以上に言える環境やツールを作る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療的ケア児、重症心身障がい児、その他の子どもを等しく支している事。	社会福祉サービス上での制限がある。看護職員の数によって受け入れできる数が決まってしまう。医療ケア児のキャンセル率の高さから経営視点では、柱とすることが難しいのが現状となる。	予防に注視し、早めの対応などすることによりキャンセル率を低く抑える努力。または、バイタルチェック、日常の観察眼の強化をすること。
2	バギーや医療器具など備品関連が多く収納しきれない。	施設の作りや整理の仕方。	施設の作り等は、致し方ない話なのでいかにして整理するか。部屋の使用の仕方、時間などを考えて支援していく。
3	支援の技術。法令。障がい特性などの知識の欠如。	職員のモチベーション。	研修会など開催したりまた、働きやすい環境をつくる。